

マーシャル方面遺族会
 (旧クェゼリン方面戦歿者遺族会)
 郵便番号 154
 世田谷区野沢 3-11-3
 電話 東京 (421) 3614
 振替口座東京 93487 番
 編集兼発行人 浮田信家

慰霊碑建立由来特集号

発行と伺って

小泉文江

向寒のみぎりご遺族の皆様には如何お過しでしょう。私都内池袋の一遺族でございます。貴重な紙面を少々お借りして日頃の感謝の意を綴らせていただきます。

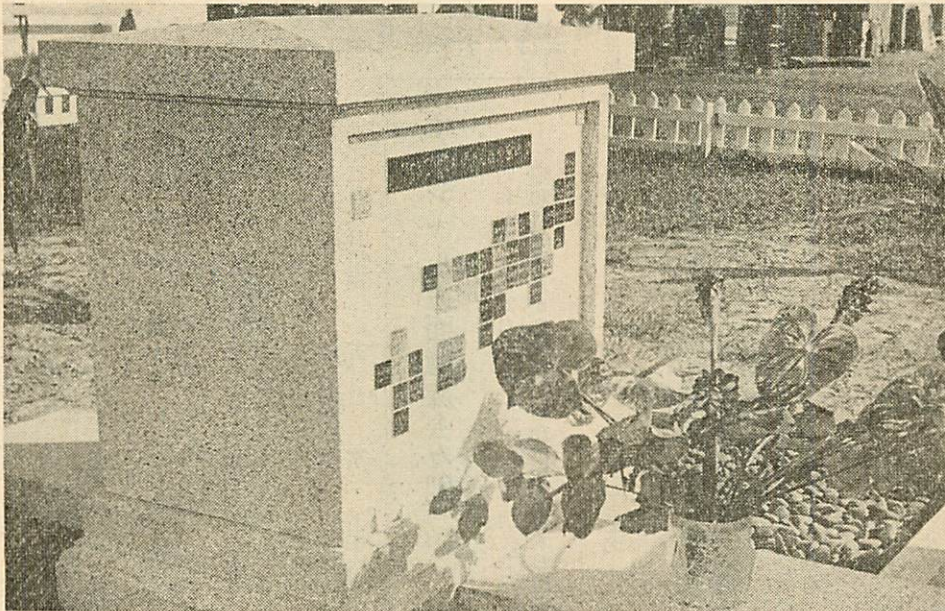
今回クェゼリン島に慰霊碑が建立されましたに当り、初代林会長様を始め幾多内外の方の並々なぬきぬきのお力添えと又なお現地慰霊の際のお二方の偉大な業績の賜と厚く御礼申し上げます。ご遺族もさぞ御満足のことと存じます。私三十八年秋の第一回総会に出席させていただきましたまして、その頃まことにむなく日本中どこかお一人でも主人の戦死の島と同じお遺族がおいにならないかと思つて居りましたもので、その会合で皆様にお会いできて本当に夢のようにうれしく力強く、その上、故林会長様のお言葉に、この遺族会の目的は現地慰霊と現地に碑を建てることとお伺い申し、なお感激一しほでした。

それから四十三年八月十日、あの立派な碑が迎賓館にて壮厳に、そして丁重な入魂式の後、横浜港へ出発の際私共もお見送り致しましたが、お遺族の中には、碑が見えなくなつても、いつまでも、お経を唱えていらつしやる方もありました。誠に有難くただただ頭が下りました。私日常少々の間でも環礎第一集の碑をお拝せていただいて居ります。

防国の土の霊も安らかに碑のもとにお眠り下さることでしよう。お蔭様で今ささやかながら感謝にみちた充実した日々を送らせていただいで居ります。

特集

「忠魂慰霊碑建立縁起」



建碑成る

目次

巻頭の辞……………(1)
 環礎12号に寄せて……………(2)
 本会々則……………(2)
 忠魂慰霊碑建立の縁起……………(3)
 第一章 戦後遺骨収集建碑の回顧……………(3)
 第二章 本会の遺骨収集と建碑……………(3)
 第三章 慰霊碑表面の図案……………(4)
 第四章 米本国より建碑了解……………(4)
 第五章 現地に木碑建立……………(4)
 第六章 碑慰霊のデザイン……………(5)
 第七章 全国知事会への陳情……………(5)
 第八章 地方も県庁に協力懇請……………(5)
 第九章 稲田石と碑製作の感想……………(6)
 第十章 霊壘収納容器の製作……………(6)
 第十一章 霊壘簿の謹書……………(7)
 第十二章 除幕式……………(7)
 第十三章 慰霊碑建立に寄せて……………(7)
 第十四章 梱包……………(9)
 第十五章 現地での建立工程……………(10)
 第十六章 全国各都道府県からの御寄稿……………(10)
 昭和42・2・6の行事……………(14)
 マーシャルの住い……………(15)
 慰霊碑建立のエピソード……………(15)
 現地慰霊碑の副碑製作の提案……………(16)
 ミラー司令官夫妻来訪のことども外……………(16)
 霊壘簿製本余録……………(16)
 寄附者芳名……………(17)
 事務局だより……………(18)

環礁第12号に寄せて

東郷神社宮司
大貫良夫殿より

環礁第12号拝受いたしました。長年に亘るご苦心が実を結び、見事に碑が完成、それが又見事に維持されて居る趣大慶至極に存じ上げます。今後共そうありますようお祈り申し上げます。

(昭和45・7・14受)

自衛隊海上幕僚長
内田一臣殿より

「環礁」を御送付頂き有難う存じました。戦後ほとんど国民に知られることもない戦記がこうして発表されますことは、誠に意義深いことです。いつかの日これらの島々が、又日本の訪問を待つこともないとは申せません。気候不順の折、御自愛を祈ります。有難う存じました。

(昭和45・7・14受)

財団法人日本遺族会会長
賀屋興宣殿より

謹啓 このたびは貴会機関誌第12号ご惠贈にあずかり厚く御礼申し上げます。

貴誌を通じ多年にわたる貴会各位のご努力の結果、慰霊碑の建立が完成いたしましたことは、戦歿英霊はもとより関係遺族の方々もご満足のことと心からお喜び申上

げます。
以上とりあえず御礼まで申し上げます。

(昭和45・7・17受)

元クエゼリン警勤務員
井上義夫殿より

長雨がつきまますが、もうそろそろ九州の方から梅雨明けとなりましよう。

役員の皆様、ご健勝で、ご尽力のことと御苦勞様でございます。いつもいつも環礁をお送り下さいますと有難うございます。第12号頂きまして早速読ませてもらっております。

記事「教育勅語謄写奉納の会」久重一郎氏は私共の佐世保海軍人事部最後の部長でございますが、80歳でお元氣を知り嬉しく思います。

現在私の勤務する庁舎の一階に海上自衛隊史料館ができておりまして(旧日本海軍の史料)毎日、内外の見学者が多くございますが、私クエゼリン島玉碑の一連の「現地写真、戦闘状況、慰霊碑写真等」をコピーし出品いたしました。生存の関係者、遺族等見て下さるものと思えます。

佐世保の海軍基地にも、お墓が数基建てられており詣るたびに、当時からなれます。

ご健康をおいのりいたします。

第一条(名称) この会は、マーシャル方面遺族会といひます。
第二条(事務所) この会の主たる事務所は東京都に置き、必要に応じ、全国各地に支部を置きます。
第三条(構成) この会は、太平洋戦争中マーシャル諸島およびギルバート諸島で戦歿した者の遺族を会員として構成します。
第四条(目的) この会は、前条に示す戦歿者の英霊をお慰めすることを目的とします。
第五条(活動) この会は、次の活動を行います。
一、昭和三十九年二月六日靖国神社
二、二十二年祭
三、慰霊の祭典を行ひます。
三、第三条に示す諸島に残された遺骨を収集し、各島に忠魂慰霊塔を建立します。
四、会員の相互扶助および親睦をはかります。
五、戦記、戦歿者名簿、遺書文集、写真帳等を刊行します。
六、その他この会の目的達成に必要なこと。

第六条(機関) この会の機関は、次のとおりとします。
一、総会
二、役員会
2 定期総会は、毎年二月六日靖国神社で開催します。
3 会長が必要と認めるときは臨時総会を開催します。
4 役員会は、必要に応じ随時開催し、会務の企画、運営実施にあたります。
5 各会議は会長が招集し、議事は出席者の過半数によつて決します。
第七条(役員の種類、職務および給与) この会に次の役員をおきます。
一、名誉会長 一名
二、会長 一名
三、副会長 若干名
四、常任幹事 三名
五、幹事 若干名

マーシャル方面遺族会々則

昭和38年6月29日制定・昭和40年2月6日改正
昭和41年2月6日改正・昭和43年2月6日改正

六、監事 三名
2 会長は、この会を代表し、会務を処理します。
3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理します。
4 常任幹事と幹事は、会長の指示により会務を分掌処理します。
5 監事は、この会の会計を監査します。
6 役員には給与を支払いません。
第八条(役員を選任および任期) 役員を選任は、次のとおり行ひます。
一、名誉会長、会長および監事は、総会で会員のの中から選任します。
二、副会長、常任幹事および幹事は、会員の中から会長が指名します。
2 役員任期は、二ヶ年を一期とし、再任できます。
第九条(顧問および相談役) この会に役員会の決定により、顧問および相談役をおくことができまします。
第十条(経理) この会の経理は、総会で定めた会費、寄附金および、その他の収入によつて支弁します。
第十一条(会計年度) この会の会計年度は、毎年一月一日より十二月三十一日までとします。
第十二条(決算) この会の決算は監事の監査を経た後、総会に報告され、その承認を得なければなりません。
第十三条(諸記録) この会の会務および会計は正確に記録され、会員はいつでも閲覧することができまします。
第十四条(支部の設置) この会の支部の設置は、会員の要望により役員会で定めます。
第十五条(支部の機構および運営) この会の支部の機構および運営は、会長の承認を得て支部で定めます。
第十六条(会則の改廃) この会の会則の改廃は、総会で行ひます。
第十七条(解散および残余資産の処分) この会は、総会出席者三分の二以上の同意により解散します。
2 解散の際保有する資産は、靖国神社に奉納します。

マーシャル諸島 戦死者忠魂慰霊碑縁起

第一章 戦後遺骨収集慰霊碑建立の回顧

— マーシャル方面遺族会編 —

終戦によって国民すべてが虚脱状態におちいり、せめて血を分けた肉親の者を探しとめるのに、精一ばいの数年がつづいた。

昭和25年6月たまたまアメリカ訪問からの帰途にあった故尾崎弐堂氏や笠置しず子、服部良一氏らが、ウエーキ島に不時着し、同島の遺骨の状況が伝えられて、はじめて遺骨の問題がとりあげられた。一般の国民は勿論特に遺族は一日も早くこれを故国に迎えるよう声があがった。

戦死者の遺骨収集などが現実化したのは昭和26年9月8日所謂サンフランシスコ平和条約調印直後、終戦から六年も経た時のことであつた。

米軍の占領当時様々の制扼があつて、例えば遺骨収集なども、国の手で行うことに難色があつたので、まず同9月10日文部省から「戦死者の葬祭などについて」という通牒が出され、これによって昭和21年11月以来禁止されていた公共団体等による慰霊祭、追悼式などが、政教分離の建前を守ることを条件に解除されたものであつた。その頃海外における戦死者の概数が発表されたが、その数は

総計で 一、五六一、三八三
その内
マーシャル諸島 二一、九〇六
ギルバート諸島 八、四六八

ということであつた。

これら百余万戦士の遺骨が異境の山野に残され、弔う人としてなき事實は、遺族はもちろん日本全国民として到底放置しえないところで、第十三国会(昭和27・6・16)で「海外諸地域等に残存する戦死者遺骨の収集及び送還等に関する決議」という決定がなされた。

ウエーキ島のことや口火となつた関係もあつて、太平洋上の玉砕した島々の遺骨を迎えたいという声がまず具体化し、昭和27年10月南方八島むけ政府派遣団が派遣され、遺骨を収集し、自然石に「戦歿日本人の碑」と彫つた碑を建立して来た。

その後本会が遺骨収集と建碑を要請したとき政府は、南方八島のときマーシャル、ギルバート諸島の戦死者のため、海上慰霊祭を行つたから、国としては、要請には応ずることはできないという回答を示された。

- 南方八島とは
- 1 南 鳥 島 (マーカス)
 - 2 ウエーキ島
 - 3 サイパン島
 - 4 テニヤン島
 - 5 グラム島
 - 6 アンガウル島
 - 7 ベリリュール島
 - 8 硫黄島のことであつた。
- その後ひきつづき、アッツ島、

ガダルカナル島、ラバウル、ブナ、ウエワク、シンガポール、マライ方面、ビルマ、インド、ニューギニア、北ボルネオ、昭和33年にはフィリッピンにも派遣された。

第二章 本会の遺骨収集・建碑計画

前章の動きとは別に我々は、戦歿した肉親が靖国神社に合祀されたという通知を受けたとき一散に靖国神社に詣で、翌年からは毎年2月6日、神社で顔を合せるようになった。そしていつしか、同じ島で肉親が戦死したということが縁となつてお互いを結びつけた。昭和38年には「来年は戦死後20年になる。なるべく多数の遺族が集つて慰霊祭を行いたい」という話に発展し、林前会長、佐藤現常任幹事が産婆役となつて準備が進み、同年6月29日に本会が誕生するに至つた。(環礁第1号6頁参照)

このとき約百名の発起人によつて審議決定された本会会則(本号2頁参照)の第5条第3項に「第三条に示す諸島に残された遺骨を収集し、各島に忠魂慰霊塔を建立します」と定められた。

当時クエゼリン島の遺族だけで発足し、その他の島の遺族からの入会希望があつて広大な範囲の会員となつたが、基金があるわけなし、本会自ら遺骨収集に行つたり、現地に慰霊碑を建てるなどは夢にも考えなかつた。

既に外地各所に政府派遣団が派遣された。開戦後はじめての玉砕五島、戦死者三万余という地域だから、政府が派遣団を出さないわけはない。そこで発会草々から、林初代会長、石橋顧問、村上現会長、古賀前副会長が厚生大臣或は次官に嘆願し、又本部役員が政務次官、援護局長、課長に請願を繰返した。

しかし残念乍ら、この念願は叶えられなかつた。(環礁2号2頁参照)

「我々は玉砕地の遺族である。一旦会の活動目的と決めたのだからやれないことはあるまい」という強い願いが会員を動かす、環礁2号2頁のとおり40年6月直接現地との交渉がはじまつた。

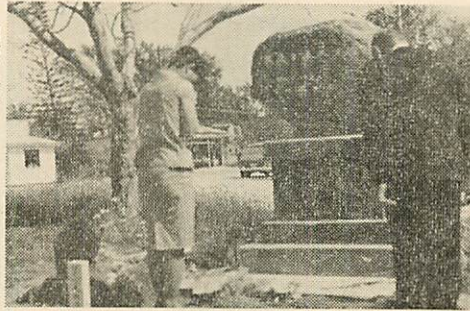
同年9月にはサイパンから本会あて書信があつた。(環礁3号12頁)それ以来クエゼリン或はサイパンと交渉をつづけた経過は環礁4号10、11、12頁によつて御承知願つたことである。

その頃である。高知県のある会員の方が環礁3号を読んで「政府としてもいまだに出来ないでいる。従つて遺骨収集や建碑のことなど考えてもいない本会のような小さな遺族会が米國領土に建碑するなどインチキも甚だしい。そんな会に会員として入つていくことはできない。今後環礁は送るな」という激しい手紙を受つた。

或はそれが常識的な考え方であつたかも知れない。本部役員一同残念にも思ったが、しばらくの我慢だやりぬこうと更に結束を固くした。

昭和41年5月クエゼリンから一〇〇キロの砂が、米船によつて送られて来たことから日本とマーシャルとの間に貨客船の交通のあることが判り、急に夜明を迎えたよ

うな気持ちで独自で遺骨を収集し建碑することにふみきつた。



昭和27年建立サイパン島の碑



昭和27年建立グラム島の碑

第三章 慰靈碑表面の図案

昭和43年晩秋の或る日、都内のとある大新聞社から本会に電話がかかった。「いよいよ皇居新宮殿が11月14日落成の運びとなった。ついでにはちょっと聞きたいのだが、クエゼリンの碑の日本を象ったデザインは○の間の壁画を模倣したのではないのか」という内容であった。一旦はムカッとなったが経緯を知らない彼等には無理もないことと私個人が昭和41年春から考えつづけたことや、既に米國政府の承認もとつてあることを説明したので先方は電話の軽卒を詫びてた。

第二章にのべた通り、昭和40年12月に墓石さえ送れば建立するという米司令官の回答をうけてから私の頭は何を見てもそれに関連した。そして翌41年の春、戦没者は全国例外なくどの県にも何人かある。全国を何とか願はしたい。面積にこだわっていたのでは香川県などは頭せなくなる。同じ面積として正方形こんな考えが次々に頭に浮んだ。そして3センチ四方の厚紙をならべて見た。何回かやっている中に北海道も沖縄も朝鮮も紀伊水道も豊後水道、関門海峡も朝鮮海峡もある。左上が形よく空いているので碑銘がかかる右下には会名が書ける空白がある。戦没者には妻、子のなかった人はあっても父母のなかった人は一人もない。して見れば父と母を代表して朝香名譽会長に碑名、石橋顧問夫人には会名を御揮毫願って父母の間に安らかに眠っていたく形に

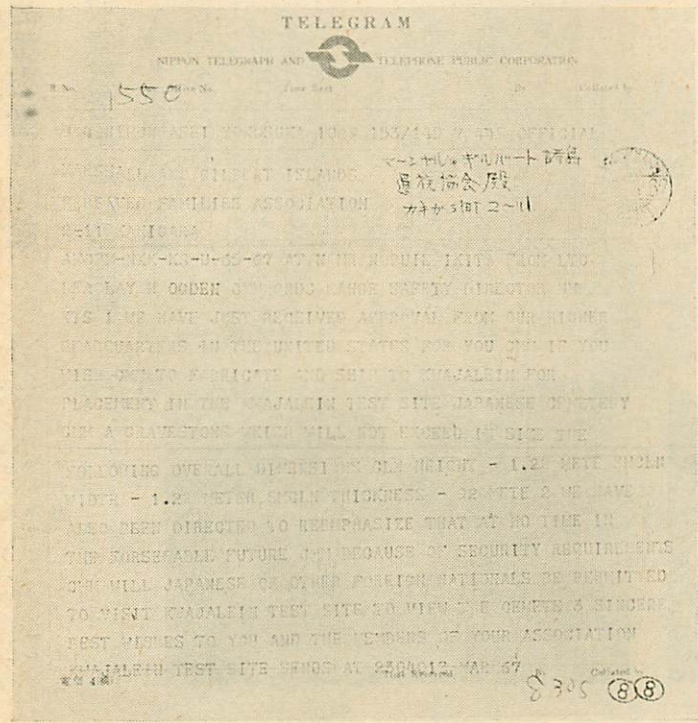
する。こんな風に発展し、そして京都の仰言るように(12頁)石こそ子供の頃から年老いるまで、自覚なしに喜怒哀楽を共にしたもので郷里の石、知事さんの温い筆こんなことがあつたの形をつくりあげた。

第四章 米本国より建碑の了解

本会の計画による碑について尋ねた手紙の返事を昭和41年9月17

たら、アメリカでは、まだ日本は委任統治をとりかえす気もちが底に流れているかと考え、拒否されおせぬか不安である、との御注意があつた。事に慎重な佐藤さんの考え、私も反省を要するとし、いよいよ工を起すときは米國の了解をとることにしてこの図案を保管した。

皇居の模倣どころか、マリーシャルの遺族となれば誰しも考える図案であつたのである。(浮田)



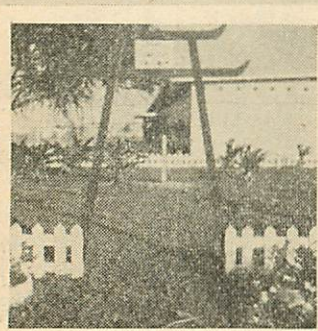
第五章 現地に木碑建立

昭和42年4月23日横浜埠頭から出帆した派遣員はサイパン島、ティアン島、ガム島等に昭和27年建立された「戦没日本人の碑」を参拝しながらクエゼリン本島について。それから半年に亘って十三の島に木碑を建てた。木碑であるからながくはもたないがクエゼリンに本格的な慰靈碑が建つまでしばしの夢をむすんでいただくことを願った。(建立島名、環礁7号3頁) 行動中8月16日エビゼ島の埠頭でヒールー司令官に会い、建碑についての希望のべたが、お示し通りに建立するから、日本に帰つたらなるべく早く送るよう熱のあつた要望を出された。

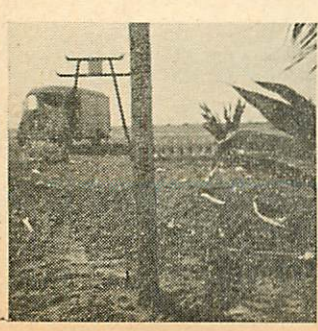
にこのことで鶴首待っていたが、本会派遣員出発一カ月前42年3月24日電報で承認が来た。その電文と積文は環礁6号5頁にのせたが、本号では配達された公電を掲載する。

本島埠頭には二回横付けする機会クエゼリン環礁には三回入港し

その表面



クエゼリンの碑全景



その裏側

第七章 全国知事会への懇請

本部では、このことについて、次の通り懇請をした。

42・4 全国知事会事務局を訪問し、旧知の高畑双吉次長、篠崎正総務部長に、本会の総てをお話し協力を求める。

高畑次長は特に好意をもつて作戦指導をしてくれる。

42・5・6 村上副会長と同行して知事会を訪問し、協力を要請した。

42・5・10 知事会に各県知事、総務部長宛の資料を届けた。

42・5・10 夜林会長宅を訪問、打合せ会長より和歌山県知事に電話していただくことになった。

42・5・13 都世話課長訪問。関東ブロック取まとめを依頼する。

42・5・18 村上副会長、石橋夫人と知事会館訪問、全国知事会々長桑原愛知県知事に協力方を要請した。

42・5 知事会幹事会（総会提出議案の事前調査機関）に臨席させていただき、総会議案に本会の要請をとりあげて頂

くよう説明した。

各県共極めて好意的に質問などあったが、一、二県は、「沖繩の慰霊碑でこのことは終っている」とつぶやいていた。

42・7・21 世話人・全国知事会議

で、いろいろ議題のあった中に、(5)各種団体に対する賛助についての「イ」に「マイン」島戦没者遺骨収集、慰霊費建立について」という題で審議された由であるが、「本件について」も、世話人総務部長会議において検討されたものでその結果について事務局から報告があった。協議の結果、応分の協力を行うという申し合せを行なった。

そして同月28日の全国知事会議では協議事項の(2)マイン「遺骨収集」というのが除かれて「慰霊碑建立」ということにはしぼられたが、これについて「応分の協力することです承された」と書き残された。(佐藤)

第八章 地方も県庁に協力懇請

42・4・21 各都道府県庁所在地或はそこに近い、そして従来も

とも御力添下さっている会員二―三名の方に参考資料を届け県庁内担当の方に趣旨を説明し、知事の揮毫、銘石として補助金の交付をお願いしていたくよう頼みしました。皆様お忙しい中又慣れないことで、大変であったと思

第六章 慰霊碑のデザイン

慰霊碑全体のデザインは、環礁5号6頁の第2欄に記載のとおり鷹本初太郎先生が御努力下さって、又とない立派なものに仕上がりました。原稿締切になりましたので、御全快をいたしましたところ、11月7日交通事故、オートバイにはねら

- 秋田 佐々木三郎様、時田セキ様
- 山形 武田喜市様、渡辺ミノ様
- 福島 紺野誠様、佐藤啓一様
- 新潟 椎谷武雄様、藤田より様
- 茨城 小松崎つね様、吉川勝太郎様
- 栃木 岡田良男様、早乙女ツネ様、坂本テル様
- 群馬 園部忠一様、滝沢謙次郎様

れ、頭その他を強打され、只今入院中。読書、執筆はもとより、ラジオ、テレビ等おおよそ頭を使うことは当分一切禁じられておられる由です。従って第六章に予定しました慰霊碑デザインについての縁起は先生御全快後御執筆いただくことにいたしました。御全快をお祈りいたしますと共に、お詫び申し上げます。(浮田)

- 北海道 大井誠三郎様、大橋すみ
- 青森 石田少一様、工藤八十様
- 岩手 坂本要治様、星川クマ様
- 宮城 平形いせこ様、宮原康様

- 静岡 内田貴徳様、深見助一様
- 富山 加賀典昭様、佐伯シゲ様
- 石川 高島ふよ様、寺西ときわ
- 福井 飯島幸吉様、梅田清子様

- 長野 宮入貞夫様、森山 要様
- 岐阜 川島あぐり様、渡辺三三様
- 愛知 岡本幸晴様、小山内小美様
- 三重 伊藤政八様、福田秀一様
- 滋賀 田中ノブ様、丹羽静様
- 京都 阿蘇ヒサ様、高津三代治
- 大阪 久次米佳様、安井文子様
- 兵庫 枝光たい様、友枝カオリ
- 奈良 谷口スエ様、山崎タメ
- 和歌山 谷口たき様、福井エイ
- 鳥取 井上照美様、下向芳子様
- 島根 園山カズ子様、松下綾子
- 岡山 大月文子様、木村まつ代
- 広島 浜本米一様、村上愛子様
- 山口 嘉村栄様、小住龍子様
- 徳島 大寺綾子様、峯野英男様
- 香川 秋山正清様、奥田マス様
- 愛媛 久保田泰子様、松友都様
- 高知 石本一恵様、千頭政衛様
- 福岡 西原康雄様、深川英由様
- 佐賀 酒井平六様、持永宇一様
- 長崎 山田文子様
- 熊本 勝本ユリエ様、栗山大
- 大分 石塚文子様、内田政次郎
- 宮崎 外山薫逸様、布施トク
- 鹿児島 法元クニ様、八代いくゑ

第九章 稲田石の沿革と

慰靈碑製作の感想

友常石材工業株式会社

社長 友 常 充

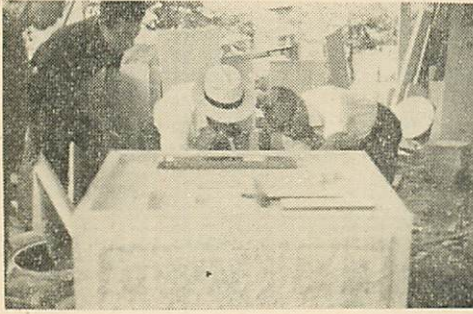
明治時代の東京では、石と言えば先づ房州の砂石、伊豆の安山岩等が知られていました。瀬戸内海から、船で運んでくるみかげ石は、あまりに値が張るので、一般市場向ではありませんでした。

幸い茨城県笠間稲荷の周辺に産する稲田石は、品質が良い上量が豊富で、東京市場に近い、国鉄水戸線の稲田駅から採掘場まで二キロという好条件に恵まれましたので、初めて貨物列車に積み込み、東京に向けて発送したのが、明治三十年であったと言われています。

当時は山の表土を削いで捨てるにしても、鶴嘴やスコップを使い、手車で運んで捨てたが、現在はブルドーザを使うように変わりました。切り出す方法も機械が無かった時代なので火薬を詰め込む穴を一つあけるにしても、三人がかり、一人が「ハッパ」のキリを押え、他の二人が十二キロ（三貫目）もあるハンマー（玄能）を替る替るキリにつける。直径三センチ程の穴を四尺（一二〇センチ）掘るのにまる一日もかかった程です。

当時は石工も火薬の基礎知識がなかったので時々大きな事故をおこしたものでした。今では鑿岩機を使うので、この位の穴は十分か十五分ですみますので、格段の差があるのです。

穴掘りがすむと、火薬を詰め込



友常石材工業にて

み、爆破させ、倒して、必要な寸法に割ります。割り方も以前は、のみで穴を掘り、矢を入れて、上から玄能で矢を締めて、割りましたが、今では、この矢穴も皆機械で掘るようになりました。

搬出の方法も荷車からトロッキンに変りました。前は山で切ったまま出荷していましたが、今では切り出したものは殆んど機械又は手加工をして、製品とし、トラックに積み込んで、工事現場に直送するようになりました。

こうして、稲田石は安い上に、品質も優秀、その上迅速に供給されますので、一躍名声を博し、全

國的に硬石界の王座を占めるに至ったのであります。私は幸いにして、先祖伝来の石山を豊富に継承しましたので、この業を興し、東京第一石材工業の協力工場として、多年に亘り墓石からビルもの石工事迄、あらゆる石製品を手掛けてまいりました。鷹本先生にも亦多年に亘って、御指導を戴いて居りました。たまたまご縁がありましたので、貴遺族会の慰靈碑の製作依頼を受けました。

私も実弟二人がフィリッピンの

このたび慰靈碑建立特輯号発行に際して、当時靈壘収納容器製作をお引受け致した私に、それらの模様等につき会報を通じて皆様にお知らせする様ご指示がありましたので、その旨を御返しながら二、三

第十章 靈壘収納容器の製作について

監事 昼 間 楽 平

私も実弟二人がフィリッピンのルソン島及びミンダナオ島で戦死致しておりますので、現地に慰靈碑建立のお話をお聞きしました。時立派な遺族会であると感激いたしました。外地で寂しく眠っている英霊はよりどころができて、さぞかし、喜んで下さるであろうと感慨ひとしおでありました。

又外地に建てる交渉或いは各都道府県との接渉など苦勞と努力こそ金銭には替え難い尊さを感じました。数多くの皆様が本当に喜んで下さる仕事こそ、やり甲斐のある仕事だ！ 出来得る限り、立派な製品を期間中にお納めして、迎賓館での除幕式を、目のあたり

に思い浮かべながら石工を叱咤勉勵致しました。八月十七日除幕式のある日、遺族の皆様喜びを目の当りに見えました時、ああ仕事をして良かった！ と今だにあの時の光景が浮かんで参ります。

因に慰靈碑の加工は、はめ込み板以外全部石工の手工であります。ご遺族の皆様、暮々も御自愛專一に御過しの程謹々お祈りいたします。

慰靈碑の製作は専門家に設計製作を依頼し、皆様も御存知の様なデザイン、材質他に比類なき美事な出来栄で如何にも本会におさわるに傑作でした。その中にお祀りする靈壘を如何なる材料、方法でお納めするのが良いかに焦点を絞って苦勞致しました。先づ材料の選定ですが、現地の気候風土に合せて対水、対湿等条件に適した材質は銅より現代的なステンレスチール・一八・八クロームの方が優位と判断致しこれを使用

しました。又工作上の問題点である靈壘収納後容器の密閉ですが、収納物の性質上溶接及びロー付等高温加熱する事が出来ませんので特種低温溶接を採用致しました。以上の如く何千年もそして永久に御靈安かれと念ずる遺族全員の願いが通じ永遠に南海の楽園に鎮まることが確信致して居ります。奇しくも本年アジアで始めての万博が日本に於いて開かれ、これを記念して某メーカーが五千年後の後世に伝えるべく、あらゆる近代科学の総力を結集して、タイムカプセルなるものを作成致しましたが本会の慰靈碑はこれに優るとも劣らぬ立派な価値あるものと確信しております。なぜなら、これこそ

みたま安かれと祈る私共遺族の、日本人の心が宿っているからでございます。水も空も、碧く美しく澄みきった南の海に浮かぶ彼の地に、私共会員一同が願いをこめて建立した「慰靈碑」の奥深くに安置した「靈壘収納箱」と共に、この中に奉安された多くの護國の英霊の皆様を神界の日々のごとくなえに晴れやかならむことをお祈り申し上げつつこの稿を終ります。

収納容器の大きさ

- 厚さ 〇・四ミリ
- 横 一八センチ
- 縦 六八センチ
- 深さ 一七センチ

第十一章 靈壘簿の謹書

慰靈碑建立という一連の仕事の中に、慰靈碑本体内に戦死者の氏名を未来永劫に遺す靈壘簿の謹書ということがありました。

書家に委託すれば一字一字は上手に仕上がるが、親近感がないのと、第一筆料も少額ではすまません。会員のどなたにお願いするにいたしました。御忙しい方達ばかりで書く人を決めるのに役員会がお困りのようでした。これをお聞きして前会長、私の父が「皆さんはそれぞれお忙しい。手分けすると名簿資料配分も容易でなし、万一散逸等のことがあつては取返しがつかぬことである。字の上手下手が問題ではないのぢや肉親の者が謹書してこそ理が入るのぢや。お前書け」という一言で不束なことも、悪筆も承知の上で謹書することに致しました。

千年か五千年か先のことはわかりませんが一度納めたら永劫に遺されるもの紙質、墨質も厳選を要するといつて主人は靖国神社の鈴木福宣様に神社での記載方法をお尋ねしました結果・紙筆墨類を準備してくれました。但し筆で書いていたので、時間的に間に合わないのでもペンを使うことになりました。

それからというもの明けても暮れても書きつづけました。島毎に五十音順に綴られた名簿をもとにしました。毎日家事は早く片付けて机に向いました。

お一人お一人間違いないよう緊張の時間を過しました。途中で電話がかかる、又人様がおいでになって中座しますと又心を落ちつけるため深い呼吸をくり返し、粗相のないよう気をつけました。

どなたもお顔は知らない方ばかり、中には韓国の方も沢山見受けました。例令国は違つても祖国を思う心は変わりなく、遙かにかすとい南海の孤島で、遙かに故国に思いを馳せて、難儀な一日をお送りであつたらうになど感無量でした。年老いたお祖母様との二人暮りであつたとか、病身孤独の父一人残して征つたとか、毎年の慰靈祭毎にいろいろと承つたことも次々に頭に浮びました。クエゼリンのへのところで私の弟林大の名を書きましたとき、その最後はどうであつたか、女々しいことはなかつたらうか、立派に自刃してくれたかしら、敵につかまつたりはしなつたか、しばらく目を閉じたこともありまし。こうした毎日の日課が一ヶ月でやつと書き終りました。三万余と聞きましたので毎日千人余の方々の名前を書きつづけました。

これが三冊の立派な靈壘簿となつて製本されて来たときは胸がいばいになりました。早速前会長に見ていただきましたが、とても喜び満足して下さいました。この三冊が碑の中に納められ、永遠に開かれることのないまま、

南の珊瑚礁に納つておりましょ。この稿をかき了へるに当り、

第十二章 除幕式

永い間の宿望であつた建碑が全国遺族のご支援と関係者の並々ならぬご努力で見事に遂行できましたことは誠に同慶に堪えませぬ。

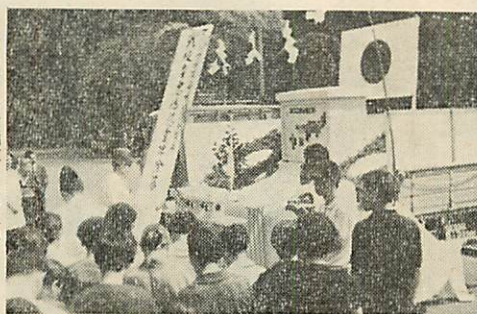
微力ながら皆様のお力添えによりまして役員を務めさせていただいておりますので、この紙面をかりて慰靈碑について当時の思い出を書かせて頂きます。

既に慰靈碑の設計図も殆んど出来上つてきた頃の役員会でした、靈壘は碑の中央部に納めるように設計されていましたが……さて靈壘が将来何年経つても変質しないように保管するにはどうしたらよいか

みたまの心やすかれと念じて筆をおきます。(浮田桜代)

岡野正文

一、赤道直下灼熱の太陽のもとにあつて熱変化しないよう
二、露や湿度で変質しないよう
等、色々細かく一つ一つ検討された結果、石碑の構造については第一石材社長の内海さんに、靈壘箱は屈間幹事にと、それぞれ専門



靖国神社鈴木福宣さんの入魂

第十三章 慰靈碑建立に寄せて

金子英郎

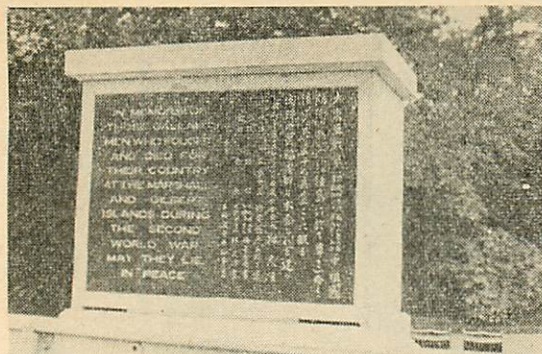
私は浮田さんのお計らいで、昭和四十三年八月十七日、迎賓館に於て行われたクエゼリン島に建立される戦死者慰靈碑の現地発送に先だつての除幕式に参列させて頂きました。除幕された慰靈碑の立派なのに驚きました。内海さんが山元から吟味して切

一枚一枚の靈壘は、それぞれ妻子、親、兄弟、あるいは故人に最も縁の深かつた人の手で一字一字最大の愛と真心をこめて書かれたものだ。現地にあつて、もしその字を英霊が読まれるならばそれは生前何度か読んだことのある懐かしい見憶えのある生の字であることに気づかれ、さぞ満足され喜ばれることであらう。

これこそ墓参が出来ない私どもにとつて今我々ができる最大限のことではないだらうか、と。

出したと云う原石に鷹本さんの丹精こめられた類を見ない斬新なデザイン、そして全国都道府県名を刻んだ各特産の銘石が地図を象って填込まれてあり、精魂をこめられたその仕上げは単なる石碑ではなく、美術品でした。

それにもまして心を打たれたのは、引き続き行われた入魂式です。靖国神社の鈴木禰宜さんの心の籠った厳肅な招魂の儀、そして、朝香名譽会長の切々たる御言葉。ああ！これで会員の皆様の悲願をこめた慰霊碑に、戦歿三万五千余柱の英霊の魂がこめられたのです。慰霊碑はこれから横浜港を発し、海路はるばる玉砕地クエゼリン島に送られ、現地に建立されるのです。私はこの慰霊碑の梱包船積をお引受けして居るのです。今更乍らその責任の重大さ



に八月の炎天下でありましたが身引きより先、浮田さんから「いよいよ慰霊碑現地建立が確定しました。梱包船積は頼みますよ」とのお話があり、私は「よろしくございませう」と簡単に引受け致しました。何故なら私は梱包船積専門の会社に勤務して居るのです。しかし当日この式に参列させて頂き、これは大変な事だと慌てました。成程貨物の船積は毎日やって居ります。しかし魂の船積は全く始めての経験です。途中事故でもあったらどうしよう。通常の貨物なら事故のあった場合保険でカバーされます。が、しかし、魂は事故の場合保険で補償する事は出来ません。これはかりはかけがえのない英霊の宿る慰霊碑です。事故があっても償えるものではないのです。途中瑕

でもついたらクエゼリンの地に永遠に取つていままの姿で残る事になる訳です。私は早速社員に慰霊碑の謂を話し、協力を求めました。取扱いが聊でも粗末になっては大変です。梱包工場を片付け一隅を清めて慰霊碑をお迎えし、白布に包み安置しました。

浮田さんに現地の港湾事情をお聞きしますとクエゼリンは棧橋は小さいが設備はすべてアメリカ式に完備して居るとの事、安心は致しましたが、なにしろ四つに分解して梱包しても、本体は一トン近い荷物になってしまいます。念には念を入れ梱包は普通規格の倍の強度にし、全面フェルトの内張をし万全を期し入念に梱包を致しました。続いて税関手続、船会社手続も無事終了致しまして、いよいよ明日船積という日に、浮田さんからお電話があり「唯今、エアームイルが届き、ヒーレー司令官が本国に転任となり、後任のミラー司令官が到着された」との事、さア大変です。慰霊碑は総てヒーレー

司令官宛に発送手続がしてあるのです。今からライセンス、税関輸出許可書、船積書類を変更したのでは明日の船積に間に合いません。予定本船は横浜港本牧D三号岸壁で積荷作業が進行しています。次船を待てば一ヶ月後になってしま



下さって居る方です。今度の航海を最後に一身上の都合で下船されること、そして「最後の御奉公にこの度の慰霊碑の輸送を引受けました、安心して下さい」と約束して下さって居るのです。

私は浮田さんをお願いして、変更は船積書類だけを新司令官宛に直し、慰霊碑の方はそのまま船積させて頂く事にしました。つまり、新司令官宛に旧司令官の荷物が着く訳になります。その間の事情を御了解頂けよう、お手紙で説明して頂く事にしました。

無事に船積も終了「パンフィック・アイランド号」は現地向い出港しました。けれど私の心持は不安でした。慰霊碑の建立は新司令官の御厚意におすがりする訳ですが、うまく御了解頂ければよいが……、若し非礼とでも取られたらどうなるか……、こんな思いで二ヶ月程が過ぎました或日、浮田さんからお電話がありました。弾んだお声です。「金子さん、慰霊碑が無事建立されました。慰霊祭もして下さったそうです。唯今便りが入りました。梱包に一ヶ所軽い損傷がありました。慰霊碑には異状がなかったようです。建立迄の連続写真が同封されて居ります。ハミリも撮って下さったが現像の都合で後便になるそうです。貴方が心配して居ると思うので、一番先にお知らせするのですよ。」

ああ！これで私もどうやらお役に立てたのだなァと、久方ぶりに胸のつかえが降りる思いが致しました。そして一番先にお知らせ下さった浮田さんの御厚意を本当に有り難く感じました。

想い出しますと、私は横浜海軍航空隊に勤務致し、太平洋戦争前から、マージョロで迎えました。ハウランド島、ペーカー島攻撃、ギルバート諸島攻略、ウエーキ島攻略、ラバール方面攻略と、第一段作戦を終り横濱海軍航空隊は、昭和十七年四月ソロモン方面に進出して行き、一部残留して、第十四航空隊が編成されました。私は、第十四航空隊附となり引続き、マージョロ方面に勤務致して居りました。同年十月第十四航空隊は第八〇二海軍航空隊に改編され、引続きヤルト島イメージ基地に本隊が置かれました。翌昭和十八年十月迄マージョロ方面ギルバート方面、ソロモン方面と転戦致し、浮田さん佐竹さん方が慰霊にまわられた所の内、ナウル島、オージャン島の他は殆ど全部歩きました。十月の初旬だったと思います。私に転勤命令が参りました。転勤先は海軍航空技術廠飛行実験部附です。後任には実験部から清水中尉が来る事になりました。

お詫び

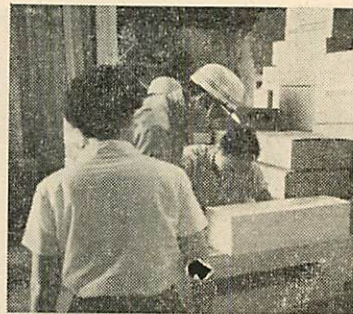
このあと、金子さんは、敵前思ひもよらない、めぐりあわせによって内地に帰還され、又この清水中尉が、紙一重と申しますか、数奇な運命に弄ばれて、悪戦死になり、今その御遺族が、本会の会員となっておられるという、お話につづいておりますが、編集の不手際によって、次号にまわさなければならなくなったことを、お詫び申します。

第十四章 梱包

昭和43年8月20日浮田常任幹事のお供をして浮田夫人、佐竹幹事と四人横浜新山下にある明正交易起業株式会社の倉庫に参りました。

現地に送る慰霊碑は17日の除幕式のあとトラックで送られ、この倉庫に納めてありました。私共の着きましたときは既に作業員の方が丁寧に作業をすすめておられました。

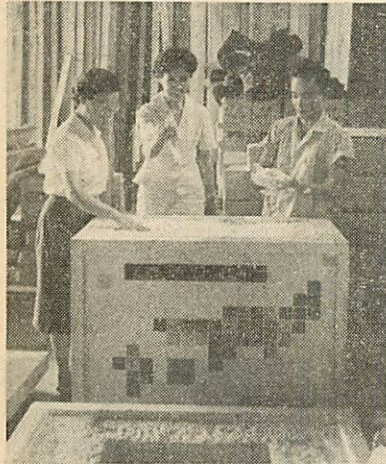
お邪魔になってはと思ひ隅の方におりましたが、霊壘の入った昼間さんの作られた箱を碑の母体に納めます頃には四人とも何時とはなしにお手伝いしておりました。肉親の情でも申しますのですし、うか、碑の中に霊壘の箱を納めまして、周りを動かないよう特殊の白セメントをつめました。そのときは霊壘などとは思われず遺体を



霊壘収納容器の包装

納棺しておりますような気持で、セメントをなでながら遠いクエゼリンまでの船旅、少しでも隙間があつて、そのため動きでもしたら身体が痛くなりわししないか、いろいろ思ひめぐらし、思わず目頭が熱くなって来ました。

碑は白布で、幾重にも包まれ、頑丈な木の枠です。かりかこまれ横文字で行先が書かれました。



霊壘収納箱を納める

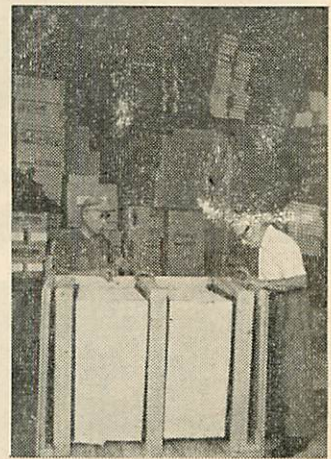
ああ、これで英霊に、安らかに眠りただけのことと思ひ、無事船旅を終え、クエゼリンに着きますことをお祈りいたしました。

(安藤サヨ)

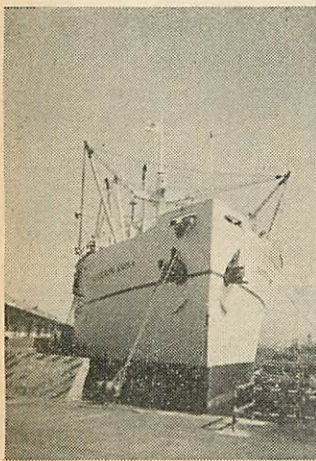
余。白。を。借。り。て。お。願。い。

印刷費はじめ諸物価値上げ、郵便料まで値上げのため、現在印刷担当は大変苦心しています。

一方なるべく多くの遺族にお喜びいただくため、現在三千人の方に環礁をお送りしていますが、四十五年度の会費は僅か六百二十五人しかいたしておりません。将来に對し不安がありますので、この際四十五年度会費未納の方は至急お送り下さいますようお願いいたします。なお右様の現状につき、四十六年度会費についても、なるべく早目にお送り下さるようお願い致します



慰霊碑母体の包装

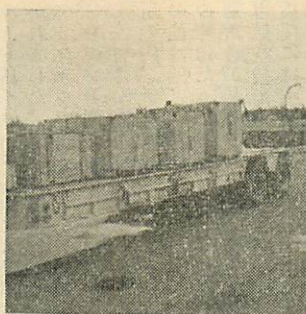


昭和 42. 9. 13 パシフィック アイランダー号 慰霊碑を護り横浜埠頭解纜

第十五章 現地での慰霊碑建立工程

徳 原 徳 子

十月二十九日(火) 朝パン
 フィックアイランダー号クエゼリ
 ンに入港。早速荷卸しにかかる。
 徳原写真撮影。ミラー司令官と信
 託統治領事務所長オウンベール氏乗
 船しデブラム船長より供物その他
 荷物受領。供物等すべて司令官々
 邸に保管。慰霊碑の包装木箱四個
 は倉庫に保管。



木箱四ヶ倉庫へ

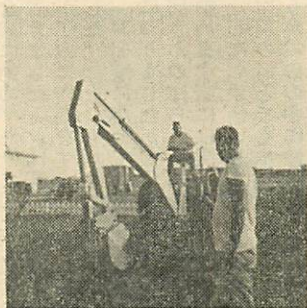
十一月二日(土) 倉庫のト
 ミー小島氏の協力に依り数名の日
 系人の手で荷を開く。この状況は
 福田氏が撮影。突然の大スコール
 にもかわからず無事開け終り防水
 布でカバーする。

同夜或る人の送別会がミラー司
 令官々邸で開催、私共夫婦も招待
 を受けたが客間には船から受領の
 荷物が積まれてあった。貴会から
 贈呈のサントリー・ウイスキーは
 ミラー司令官が喜んで試飲された
 とのことでした。

十一月五日(火)

墓地に図

面通りのサイズの穴を掘りまし
 た。その穴にセメントを流すため
 の木枠は木工場で製作されまし
 た。穴を掘った際、人骨らしいも
 のがかなり出て来ました。それは
 他の場所が発掘されたものをそこ
 に埋めたのだそうです。日本人の
 ものであるかどうか不明ですが、
 出来得る限り細かい骨まで集め、
 穴の中央に埋めました。昨年建て
 た木の墓標はもうかなり風雨にさ
 らされ古ぼけていました。



先づ四面どりの穴を掘る

十一月六日(水) 穴に木枠
 をはめこみ、ステイールバーを組
 み、敷きました。ワイヤーを使う
 予定でしたが砂地で柔らかすぎ
 るのでステイールバーを使用したわ
 けです。セメントを流せるばかり
 に用意しました。

十一月七日(木) セメント
 流し込み終了。乾いて固まるまで
 四・五日待機。



木枠はめこみ

十一月十三日(水) セメン
 トの枠除去(徳原のみ)

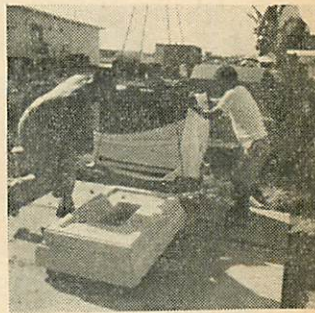
十一月十四日(木) 基礎石
 を置く。水平に置くこと意外とむ
 づかしく時間かかる。



基礎石据えつけ

十一月十六日(土)

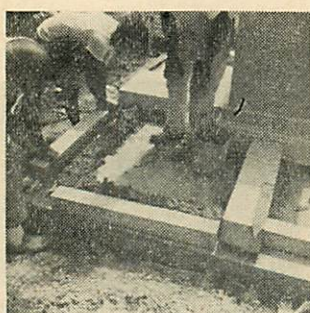
明日完
 成させる予定なので、その準備を
 しました。石の角がいたまじい様
 各角に木片をあてがう。機械、工
 具その他必要なものを全部墓地に
 運ぶ。石を吊り上げるためのワイ
 ヤーの長さが不足なのでそれをつ
 ぎ足す。同夜パーティーの席でミ
 ラー司令官その他陸軍の幹部数名
 に会ったので来週中には完成し、



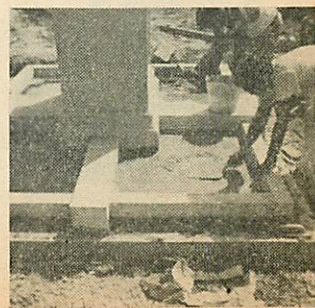
基礎石を水平に

十一月十七日(日) 午前八
 時作業をはじめました。基礎石の
 上に本体及び屋根根石を置き殆んど
 完成。午後四時まで作業を続けま
 したが、あと囲りに小石を敷き、
 墓地を清掃する仕事だけ。

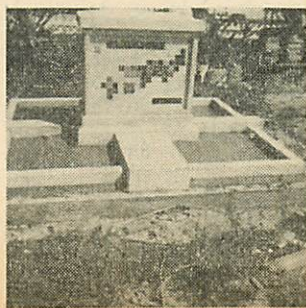
十一月十九日(火) 墓地の
 清掃、最初に掘った土を土台の周
 囲にかけ、地ならしをしました。
 そのときまた人骨が出て来ました
 ので、集めて埋めました。あとは
 小石を敷くだけの仕事です。碑に
 は新しいシートをかけ、祭典の日
 まで覆っておくことにします。



周囲の石の取付



念には念を入れる



据付を了る(裏)



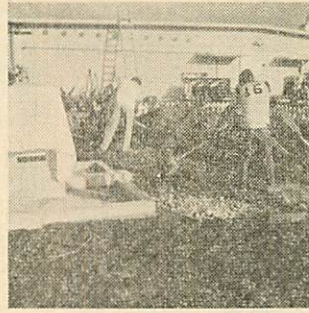
据付を了る(裏)

なお石はすべて無傷で完全な状態でしたことを申添えます。

十一月二十九日(金) 小石

を敷きすつかり終了。十二月一日に除幕式をする予定。除幕は牧師レブ・ブックさんにお願ひすることに致しました。

入口の鳥居「日本人墓地」のサインなど新しくペンキが塗られ、綺麗に化粧されていました。



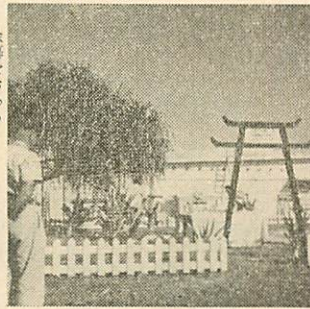
周囲の掃除

十二月一日(日) 午後焼けつくような暑さの中で除幕式開催。レブ・ブック牧師のお祈りではじまり、三十分余で無事終了。

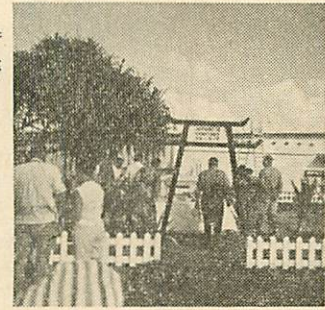
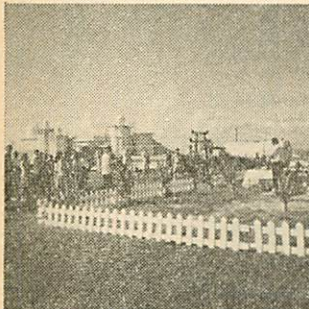
碑の前にテーブルを置き、真新しいテーブルカバーをかけ、お送り下さったお供物を並べ、線香をたき一人一人焼香を致しました。日系米人多数。その他軍の幹部夫妻が何組も焼香しました。大変静かな、心のこもった、そして何となくなごやかな記念すべき除幕式でした。生憎くミラー司令官は前日本国からの命によって急に出張され、不在でした。



除幕(右牧師左徳原氏)



除幕をおわる



参拜

司令官以下軍をあげての厚意と日系米人達の献身的な協力で、初めからスムーズに進みましたことは大変幸運だったと思います。式終了後お酒や冷えたビール、コーラを開け、お供物を領けあって、しばらく懇談。午後五時すぎ解散しました。

英霊やつと静かに眠る



英霊やつと静かに眠る

イナフクさんがわざわざホノルルから航空便で生花を取り寄せ、供えて下さいましたが、美しく英霊をお慰めするかのようによく映えておりました。

↑牧師のあいさつ

第十六章 全国各都道府県からのご寄稿

揮毫された知事ご氏名

銘石名 町村 金五殿
銘石名 十勝御影石
銘石名 俊吉殿
銘石名 錦石(青森県特産)
青森県中津軽郡相馬村相馬川からのもので本県特産の銘石である。

北海道

揮毫された知事 竹内 俊吉殿
銘石名 十勝御影石

山形市を流れる馬見ヶ崎川に産する本県産出の石である。
福島県
揮毫された知事 木村 安江殿
銘石名 黒みかげ石
本県特産

青森県
揮毫された知事 竹内 俊吉殿
銘石名 錦石(青森県特産)
青森県中津軽郡相馬村相馬川からのもので本県特産の銘石である。

県内の関係ご遺族の皆様へ
貴会のご達成と今後のご発展を祈ります。

岩手県
揮毫された知事 千田 正殿
銘石名 白御影石
県下各地に産する御影石のうち岩手郡玉山村洪民の御影石で、建築材等多方面に利用される。

茨城県
揮毫された知事 岩上 二郎殿
銘石名 御影石(花崗石)
御影石は茨城県内の八溝山系の一部、笠間市稲田近辺の山から産出し、建築用、造園用、燈籠等に加工使用されており、外国にまで輸出されている。

岩手県
揮毫された知事 千田 正殿
銘石名 白御影石
県下各地に産する御影石のうち岩手郡玉山村洪民の御影石で、建築材等多方面に利用される。

県内の関係ご遺族の皆様へ
マシヤル諸島、ギルバート諸島戦没者の英霊に心から追悼の誠を捧げ、ご遺族のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

秋田県
揮毫された知事 高橋進太郎殿
銘石名
銘石名
揮毫された知事 小畑勇二郎殿
銘石名

わが郷土茨城も幾多の困難をのり越えて、鹿島灘には世界に誇る鹿島港が昨年10月に開港し、一大工業都市の建設が着々として進められております。また、関東の名峰、筑波の山麓には、研究学園都市の建設がなされており、戦前にも優る明るい豊かな郷土の建設に輝しい前進が続いております。これひとつに英霊のご加護によるも

山形県
揮毫された知事 安孫子藤吉殿
銘石名 油石

わが郷土茨城も幾多の困難をのり越えて、鹿島灘には世界に誇る鹿島港が昨年10月に開港し、一大工業都市の建設が着々として進められております。また、関東の名峰、筑波の山麓には、研究学園都市の建設がなされており、戦前にも優る明るい豊かな郷土の建設に輝しい前進が続いております。これひとつに英霊のご加護によるも

のと深く感謝申し上げております。

なにとぞ安らかに鎮まりまして祖国日本、郷土茨城の前途に、ご遺族の上にも、ご加護を垂れ給わらんことを、心からお祈り申し上げます。

栃木県

揮毫された知事 横川 信夫殿
銘石 名

群馬県

揮毫された知事 神田 坤六殿
銘石 名 赤城小松石

埼玉県

揮毫された知事 栗原 浩殿
銘石 名 秩父赤石

秩父古生層「チャート」通称を秩父赤石という。碑石の産地は、埼玉県秩父郡吉田町大字石間字半納、城峯山麓石間川産である。

千葉県

揮毫された知事 友納 武人殿
銘石 名 蛇紋石

単斜晶系に属し、主に苦土及び珪酸から成る含水鉱物。普通鱗片状、繊維状、塊状をなし、滑かたで脂肪のような感じがする。色は緑色を主として赤、黒、黄などが加わる。

県内の関係ご遺族の皆様へ

マーシャル、ギルバート方面に散華された英霊顕彰のため、このたび現地にて慰霊碑が建立されましたことは、誠に意義深いものであり、慰霊碑建立にご尽力いただいた方々に深く敬意を表します。ことばに尽せない辛苦をなめ、ひたすら故郷の繁栄と家族の幸福、世界の平和を祈りつつ、もろもろの思いを秘めて、ふるさと遠く、戦

歿されたいく多のみ霊に對し、謹みて哀悼の誠を捧げ、ごめい福をお祈り申しあげます。

戦後25年世相の変転と激動の中に郷土千葉県もようやく近代産業県としての基礎を築くことができました。これもひとえにご英霊のご加護の賜と存じます。

この上はご英霊の犠牲を体し、祖国の興隆と世界平和のために最善を尽くすとともに、ご遺族の援護を含め、社会福祉の増進に力を注ぐことをお誓いいたします。

東京都

揮毫された知事 美濃部亮吉殿
銘石 名

神奈川県

揮毫された知事 津田 文吾殿
銘石 名 小松石

根府川附近から産出する。築岩の種類に属し濃褐色を呈す。

新潟県

揮毫された知事 亘 四郎殿
銘石 名 糸角川産翡翠原石

翡翠は宝石の一。鮮やかな、翠綠色を呈する硬玉で、緻密で光沢がある。ビルマ、チベット、メキシコなどに産し、装身具、装飾品として愛玩され、我国では新潟県に見出された。(岩波書店広辞苑より)

富山県

揮毫された知事 吉田 実殿
銘石 名 油 石

石川県

揮毫された知事 中西 陽一殿
銘石 名

県内の関係ご遺族の皆様へ

マーシャル方面遺族会の皆さん。お元気でお過ごしのこととお喜

び申し上げます。

戦歿ご英霊のご遺志をたいし益々ご健康でご活躍くださるようお祈りいたします。

福井県

揮毫された知事 中川平太夫殿
銘石 名

潮風に堪える適当な墓石の原石がないので了承されたし。

山梨県

揮毫された知事 田辺 国男殿
銘石 名

県内の関係ご遺族の皆様へ

祖国の危難に殉ぜられた英霊と、その御遺族こそ最も名譽ある国民、最大の国民的尊敬を受くべき方々、そして誰よりもまた長寿と御伴が与えられるべき方々……：そうなるように、そうするように援護行政の一端を担うものとして、日々念じています。いつまでも御伴でお過ごし下さい。

長野県

揮毫された知事 西沢権一郎殿
銘石 名 黒光真石

岐阜県

揮毫された知事 平野 三郎殿
銘石 名 日吉桜

岐阜県瑞浪市日吉町字柄石から採取したもので花崗石である

静岡県

揮毫された知事 竹山祐太郎殿
銘石 名 御影石

静岡県産石で、南方戦歿者慰霊塔(昭和41年沖繩に建立)の碑石と同じものである。

県内の関係御遺族の皆様へ

戦後25年を経た今日わが国はご遺族を始め国民一人一人の努力に

より、産業経済や教育文化に、戦前をしのぐめざましい発展を遂げましたが、その蔭にはひたすら祖国の安泰と繁栄を願いつつ遠く異邦の地において、一身をかえりみず勇戦奮闘し、国難に殉ぜられた多くの御霊のご加護の賜であります。

ここに謹んで御霊のご冥福とご遺族のご多事をお祈り申し上げます。

愛知県

揮毫された知事 桑原 幹根殿
銘石 名 御影石

三重県

揮毫された知事 田中 覚殿
銘石 名 紀州那智黒

滋賀県

揮毫された知事 野崎欣一郎殿
銘石 名 瀬田のまぐる石

琵琶湖から流れ出る唯一の瀬田川が産地で、盆石として全国的に有名な、質の堅い自然石である。

京都府

揮毫された知事 蟻川 虎三殿
銘石 名 鞍馬石(貴船石ともいう)

この青みがかった黒い色の石は京都市の北部鞍馬貴船地方に産し黒茶碗などの釉薬として用いられ、茶の世界において、日本人の心には和らぎと安らぎを与え、あるいは庭石として、また時は硯となつて喜怒哀楽をともしする座右の珍宝となり、生活の中で高い格調を占めている。

鳥取県

揮毫された知事 石破 二郎殿
銘石 名 青みかげ石

県産石で墓標等に使用するものであり、特記することはない

岡山県

揮毫された知事 加藤 武徳殿
銘石 名 万成石

府内の関係ご遺族の皆様へ
蟻川虎三殿より

「環礁」の発行、忠魂慰霊碑の建設、慰霊顕彰など関係者のご努力に敬意を表します。

終戦25周年にあたり、当時の苦難と無念の心情をしのび、つつしんで英霊に追悼の誠をささげるとともに、ご遺族ならびに帰還勇士ご一同は、手をとる力をあわせて平和日本建設のため一そう活躍されますよう期待いたします。

大阪府

揮毫された知事 左藤 義詮殿
銘石 名 能勢黒

兵庫県

揮毫された知事 金井 元殿
銘石 名 本御影石

兵庫縣神戸市東灘区御影町の背後の六甲山地から産出する良質の花崗岩で、この地名をとり俗に御影石と呼ばれるが、現在、この地方産出の花崗岩を本御影石と呼んでいる。

奈良県

揮毫された知事 奥田 良三殿
銘石 名

和歌山県

揮毫された知事 大橋 正雄殿
銘石 名

鳥取県

揮毫された知事 石破 二郎殿
銘石 名 青みかげ石

岡山県

揮毫された知事 田辺長右衛門殿
銘石 名

岡山県

揮毫された知事 加藤 武徳殿
銘石 名 万成石

岡山市の北西に万成山という小

山があり、この山の北側一帯からきり出されている。桃色を帯びた花崗石を俗称万成石と称えている。岡山市を中心として建築、土木に多数使用されている。かつて明治神宮の御造営にも多数搬入された歴史をもっている。

県内の関係ご遺族の皆様へ

マーシャル、ギルバートは昭和18年暮から昭和19年のはじめにかけ米軍が反攻に転じた最初の地域でありまして、警備も薄くこの方面の守備に任じておられた方は奮戦の末玉碎された方々でありまして。遠く本土を離れた絶海の孤島に屍をさらされた事を考えますと、痛恨極まりないものがあります。マーシャル方面遺族会の方々には、これ等英霊の安らかならんとことを祈念され慰霊碑を建立されました熱意に対し、心から敬意と感謝を表する次第であります。

広島県

揮毫された知事 永野 巖雄殿
銘石名 御影石

広島県安芸郡倉橋島の産であり、広島県の特産品である。

山口県

揮毫された知事 橋本 正之殿
銘石名 黒御影石

徳島県
揮毫された知事 武市 恭信殿
銘石名 蛇紋石
本県剣山周辺には大きな蛇紋石の層がある。これは石灰層中にみられる一例である。

本県に産する蛇紋石は緑色の地に白又は黒の斑紋があり、一見蛇の肌を思わせる。ぞっとする冷たい美しさをもっている。

県内の関係ご遺族の皆様へ

日本の命運をかけた大きな大戦では沢山の人達が祖国の平和と繁栄を願いながら散華されて行かれました。マーシャル諸島、ギルバート諸島においても、優勢な敵の大軍を相手に勇戦奮闘、力の限り闘かわれた勇士達は次々と尊い身命を祖国に捧げられたのでありまして、そのご功績は私共が片時も忘れ得ないところであります。

また御遺族におかれましては、一家の柱となつた最愛の肉親を失なわれ困苦欠乏に耐えながら戦後の混乱と労苦を乗り越えて来られたそのご心痛はいかばかりかとお察し申し上げます。

戦後も25年を経過した今日ご遺族の皆さんも立派に立ち直られ、繁栄を統ける近代国家の一員として、それぞれの分野で、ご活躍されておりますことは大変よろこばしいこととあります。ご遺族の皆さん。今後ともお身体に充分気をつけてられまして、ご幸福に過ぎるようお祈りいたします。

香川県

揮毫された知事 金子 正則殿
銘石名 庵治石(黒雲母花庵石)

天正年間の大坂城築城に際し小豆島の採石が大量に行われるようになり、この頃より、庵治の採石もなされるようになり、慶長4年より本格的に行なわれた。庵治石は磨くと青味を帯びた美観を呈し、墓石や記念碑用に珍重され、明治の末頃より阪神方面に出荷するに至る。庵治石の名は、その産地香川県木田郡庵治町の地名から

つけられたものである。

愛媛県

揮毫された知事 久松 定武殿
銘石名 大島石

県都松山市道後在住の石造名家大谷家の亡当主から寄贈を受けた石で、産地石名は定かでないが、県内で有名な大島石であろうと推測している。

県内の関係ご遺族の皆様へ

マーシャル諸島方面戦没者の忠魂慰霊碑が、マーシャル方面遺族会のご努力により、クエゼリン本島に建立されましたことをおよこび申し上げますとともに関係者各位のご労苦に対しまして、心より敬意を表するところであります。戦没者ご遺族におかれまして、このよるご心ばい、さぞかしと拝察して余りあるものがあります。今日この平和日本のいづれこそは、みたまの崇高なご精神と献身によるものと深く感謝の誠を捧げる次第であります。ここに慰霊碑の建立をばくし、戦没者ご遺族のご多幸と、貴会のご発展を、お祈りいたします。

高知県

揮毫された知事 溝淵 増巳殿
銘石名 紅簾石(Redmountie)

紅簾石は関東、紀伊、高知県の北部にわたる帯状に分布している。紅簾雲母片岩(俗に紫石という)の主要部分を形成している。外国では極めて珍らしく、世界的に有名で、原石の優れた部分を加工し装身具とすることに成功したもので、貴石、銘石の一つである。

福岡県

揮毫された知事 亀井 光殿
銘石名

県から「本県には適当な銘石がない」旨お知らせがあったが、世話人福岡県の坂本ヤスエ様秘蔵の石を御送り下さったので、それに知事の御揮毫を彫刻し使わせていただきます。

佐賀県

揮毫された知事 池田 直殿
銘石名 唐津石

玄海の荒波に洗礼された灰白色の唐津石を葉隠健児が育った佐賀県の代表石として選びました。県内の関係ご遺族の皆様へ

志を同じくする人々の同胞愛と

現地の人々の暖かい隣人愛のもとに、今次の戦争において、国の御楯として、南洋方面の守りにつき、尊い身命を捧げ、困難に殉じて玉碎、英霊となられたかたがたに対し、永久にその榮譽をたたえ、ご偉業をしのび、感謝と敬申の意を捧げるため、こんなに立派な慰霊碑が建立され、この地を訪れる人々にとつても思い出深い追悼の聖地が定礎されましたことは、県民ともどもまことに喜びに堪えません。

長崎県

いつしか戦後も25年を過ぎましたが、ご遺族のかたがたえこの上もないご健康とご多幸の恵みがありますよう祈ってやみません。

熊本県

揮毫された知事 寺本 広作殿
銘石名

本県特産の銘石である。

大分県

揮毫された知事 木下 郁殿
銘石名

石英の一変種で硬度が非常に高く、不純物を含むため不透明であるが、酸化鉄を含むので緑色乃至紅色となる。本県のものは紅碧玉である。外国ではウラル、エジプト、ドイツ、イタリー、アメリカ合衆国等で産出され、我国では数多くは産出しないが、宮崎県西臼杵郡高千穂町、新潟佐渡ヶ島、島根県玉造町等から産出される。貴重な宝石で印材、指輪、タイピン等装飾に使われる(大百科辞典)。

宮崎県

揮毫された知事 黒木 博殿
銘石名 紅碧玉(Aspar)

揮毫された知事 金丸 三郎殿
銘石名

韓 国

揮毫された知事 金丸 三郎殿
銘石名

沖 縄 県

揮毫された知事 金丸 三郎殿
銘石名

韓 国

揮毫された知事 金丸 三郎殿
銘石名

お 詫 び

本部の不手際によって各県に揮毫された知事のご氏名や、銘石名等はお尋ねしてから締切まで余裕が少なかつたため、まだ十五、六県ご返事をいただいておりません。

今後いいただきました分は次号に掲載いたします。都道府県庁御担当の方々及び会員御一同に深くお詫び申し上げます。

昭和四十六年二月六日

慰霊祭(靖国神社)

総会(九段会館)

直旅行会(城ヶ島)

の御案内

一、慰霊祭と総会
午前九時 受付を始めます。
靖国神社参集所にお集り下さ

二、慰霊祭(戦死の島から持帰った砂)のほしい方には当日受付でお渡し致しますから、同封のはがきでお申込下さい。

三、九段会館に宿泊希望の方は、宿泊月日、男女別、氏名を書いて一月十日迄にお申込下さい。

四、直旅行会
会員多数の要望により昨年の総会のと伊豆修善寺で直会を催しましたところ、参加した方々に大変喜ばれ、来年も是非とこのことで今回はの通り計画し準備いたしました。

御家族連れでおおい御参加下さい。御満足頂けるものと確信して御案内申し上げます。

時 二月六日(土)・七日(日)
所 三浦半島 城ヶ島温泉ホテル
神奈川県三浦市城ヶ島

電話〇四六八一八一一五一一
横須賀 記念艦三笠外
参加費 一人 四、八〇〇円
ホテル宿泊料、往復バス代、乗船賃、入場料、中食代は一切
申込 一月十日迄に料金添えお申込み下さい。

日程
二月六日 午後一時出発
鎌倉八幡宮参拝・城ヶ島温泉ホテル泊
二月七日 城ヶ島海上一周・油壺マリンパーク・防衛大学校(中食) 記念艦三笠・午後五時東京帰着

九段会館前庭に昨年と同じ国際観光のデラックスバスがお待ちしています。バスに弱い方は京浜急行でホテルに直行して下さい。その順路は詳しくお知らせします。

バスは都心の混雑を避けて高速道路に上り、羽田空港を左に見て横浜を通り、バイパスを抜け、旧東横道の松並木の間を走り、藤沢遊行寺を経て、鎌倉に着きます。

大銀杏そびえる鎌倉八幡宮に参拝した後、バスは逗子御用邸の前を通り、右手に広い相模灘を眺め乍ら、武山海兵団跡(現陸上自衛隊少年工科学校)を経て三浦半島西海岸国道一三四号線の快適な下

旅行案内

ライブを満喫します。
三浦三崎と城ヶ島を結ぶ、全長五七五米、高さ二二米の城ヶ島大橋を渡ると、今夜の宿所城ヶ島温泉ホテルに着きます。海に映る夕陽の美しさは格別です。ホテルは島の南端の高台に在って、ここから見る太平洋の眺望のすばらしさは書き現しようもありません。

この海の向うに、マインシャル諸島があると思うと、何時迄見ている

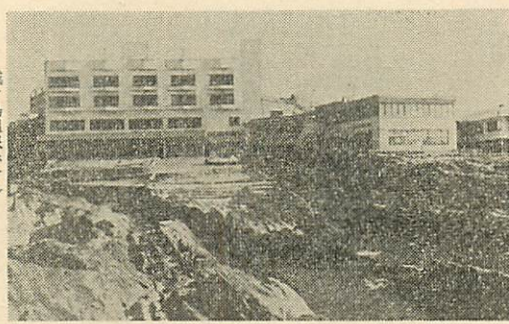
す。今回は各室バス、トイレ付ですが、一度はコロナ風呂をお試し頂きたいと石井支配人が云っております。夕食はホテル心尽しの名物海の幸が用意されます。懇談、お国自慢、のど自慢等一年一度の楽しい一時です。専属のバンドもありませんので、伴奏には事欠きません。福引も用意いたします。参加者からの面白いアイデア・御出品は大いに歓迎します。翌朝の、海からの日の出は見落しのないよう同室の約束して下さい。

八時朝食、九時出発。観光船で朝の城ヶ島を一周して油壺に着きます。船のお嫌いな方は、バスで油壺に先行して頂きます。全員マリンパークに入り東洋一の最新水族館、熱帯植物等を御ゆるりと御覧頂きます。

十一時、バスは史蹟引橋を渡り小原台の防衛大学校に向います。学校の食堂には浮田さんの御手配で、日曜にもかかわらず、お昼の隊食が用意されています。これも今度の旅行の御馳走の一つです。

午後一時、記念艦三笠に着きます。三笠は日本海海戦のとき我が連合艦隊の旗艦でありました。又五年前の四十年十月九日、護衛艦あまつがせが遙々靈砂を奉持して下さったとき、遺族会への引渡式も行はれた本会ゆかりのところであります。海軍出身の乗員(職員)がお待ちして、映画観賞、艦内見学の手筈になっています。

午後二時、バスは三浦半島の東海岸国道三五号線を一歩東京へど向い、午後五時九段会館前庭に帰り着く予定となっております。
(担当幹事 佐藤宗不)



城ヶ島温泉ホテル

でも見あきません。ホテルには北原白秋の詩や書籍が数多く展示されています。島には、北原白秋の城ヶ島の雨の詩碑、海鶴生息地、城ヶ島灯台、城ヶ島公園等々見るべきもの沢山あり、文字通りの半島随一の観光地です。

島内散歩は明朝の楽しみにし、先づはホテル自慢のコロナ風呂で都座を洗い落して直会になりま

三浦の詩と歌

若山 牧水
海越えて 鋸山はかすめども
此処の長浜 浪たちやます

若山喜志子
さすらひの身に沁々と痛かりし
竜舌蘭の群落あとかたもなし

土屋 文明
軍艦は出でたるあとの軍港に
春の潮みちくらげ多く浮く

与謝野鉄幹
たづねこし観音崎よ卓上を
駆逐艦行く 臨海の空

城ヶ島の雨

北原 白秋

雨は降る降る城ヶ島の磯に
利休わずみの雨が降る
雨は真珠か夜明けの霧か
それとも私のしのび泣き

船はゆくゆく通り矢のしなを
ぬれて帆上げた主の船
船はるでやるるは唄でやる
唄は船頭さんの心意気

雨は降る降る日はうすぐもる
船はゆくゆく帆はかすむ

横須賀音頭

一、日の出輝く横須賀は
並ぶ御艦の花がすみ
海の日本の花がすみ

二、浪は白浜 三笠艦
残る勲の弾のあと
忘れまいぞえ弾のあと

三、花は衣笠春の山
三浦海の夢模様
昔恋しや夢模様

マーシャルの住いじつじつ

佐 竹 エ ス

十一号に「とかく文明とは」の題で、水と食料につき書きましたので住いについてもおしらせたいらと思ひ書いて見ます。

マーシャルを廻るための根拠地マジューロのミエコホテルですが、マーシャル諸島、随一のホテルですと云つてもこれより外にはありません。私がマーシャルの島々を廻っている時の島民の日本人ナバーワンと同じ事でナン、パーティー二番がいよいよ一番なのです。四十二年五月二十六日午後三時上陸夕食をホテルの食堂で山田さん(徳原夫人)徳原さんの招待で頂き、私は六号室、浮田さんは十号室でした。翌朝の事です、明るくなつたら起きようとしていたのですが、仲々明るくなりません。船の生活になれたので、かえつて動かない部屋ではよく眠れないの位に思ひ乍ら、窓をあけてと電灯をつけて見たら、全々窓のない部屋です。時計を見たら九時、あわてて起き、浮田さんの部屋に行つて見ると(船では朝食が六時)ですし、朝食の時間になつても食堂にもいないし、どうしたのだから、つかれて寝ているのならよいが、病気でと案じていました。浮田さんの部屋は窓があり東側ですの、日の出と一所はまぶしくて、ブラインドをさげても暑しい、困っていたがと云つて居ました。窓の全々ない部屋等考えられませ

でした。電灯のある場所が、マジューロでも中心街だけですの、マーシャルの生活は自然と共に太陽の光と月や星の光と共に出来ているのに、マーシャル第一のホテル部屋数十のこのホテルに窓のない部屋、電灯の照明だけの部屋が四つもありません。シャワー、水洗トイレ付ですが、水の出る時間が、朝六時―八時、夕方五時―七時だけです。持参のタライやバケツ、洗面器や食器類にも水を溜めておかなければならないのです。水はチロロチロロきり出ないし、水洗トイレの水のない生活、窓のない四部屋共通使用のルームクーラーがありました、このクーラーが故障の時など密室の窓息もなりかねないようでした。土地がないのなら文明の利器を大いに活用することもあつてしようが、空地空間だけのマジューロ第一のホテルがこのようです。

マジューロ島はマーシャルの政治の中心地ですの、木造建の家がありますが、マジューロ島でも中心から少し離れると椰子葉のホツ建小屋と云い度い家が多くなります。日本軍の残した爆弾の穴だらけの兵舎や、防空壕、見張所等にも住まわれていました。コンクリートの階段下を使用した。いた人達もいます。住民の作った家は椰子葉を編み屋根も低く周囲も椰子葉で作られています。窓の所も、棒で

前(外に)出してとめるだけ、入口も上からムシロのようにしてさ

クエゼリン島慰霊碑建立のエピソード

佐 竹 エ ス

昨年夏、徳原さん夫妻が、始めて日本にいらつしやつて、浮田さん夫妻と幹事の方々とお会して現地慰霊訪問に御世話になつた事や、慰霊碑建立のお礼を申し上げた時の事です。

徳原さんが私を一寸呼ばれ、小さな声で、慰霊碑はあれでよかつたのですかと聞かれました。私は何の事かわかりませんが、立派に出来た慰霊碑を私達遺族の最高の希望が、かなえられ嬉しくたまりませんと云いますと、

「実は慰霊碑を建ててあるのが、あの通りでよいのですか、前と後があれでよいのですか、と再度問われ、現地クエゼリンでの建立の時、どちらが前か後かで、賛否両論にわかれたのだそうです。アメリカのやり方なら偉い人が書いてある碑文のある方が表面になっていますの、(碑文は英字でも書れてあります)日本人の偉い人達か書いてある方が表面、トリンに碑文のある方が前、いや日本人は何でも反対だから絵の方(日本地図)が表面と廻した

り、前にお願した木の慰霊碑の文字を見ると、碑が前で数字(建立年月日)が後になつていて、とずいぶん迷われたようですが、反対にすることに、今の通りになりましたが、心配でしたとの事です。

お困柄のちがいは、こんな事にもあります。一寸した事で反対になることもありますが、何時も好経過に進まれるのは、英霊のおみちびきがあるからでしょうと信じています。さて次の希望は……クエゼリン島の日本人御夫妻が、日曜日ごとお参りをしてくださつていらつしやるとお話し伺いました。慰霊碑は何時もきれいに掃除され雑草もはやさず、私が心配した、那智黒の敷石も一つも持ちさられるような事もなく、立派に保たれているそうです。

私の心配と云うのは、グアム島の慰霊碑、小さな栃木県の慰霊碑が四月マーシャル行く時になりましたものが十月には見あたりませんでしたので聞きませと、今、石ブームのため悪い人が持ち去つたのではと聞いておりましたので。

げてあるものもありますが、大底はあけたままでした。ミレ島で宿つ

た首長の家でも二間に三間位の小さな家です。床も椰子の葉やタコ木の葉で編んだゴザ(アンペラ)を敷きつめていました。

学校にも宿りましたが、屋根と周囲だけはありますが床は石の上です。でもサンゴの白い石ですの、で土の上とは違い汚れることはありません。椰子の葉やタコの木の葉で編んだ敷物で、座敷にもなりフトンにもなるのです。マーシャルの人達は何処へ行くのにも大きな枕と必需品を椰子の葉の編物で包み持って歩きます。私達も全部持っていますが、首長宅や学校に泊りましたが、小さな家が多くの家族が多勢(一家一〇人以上が多い)ですの、持参のカヤや、パンの木の枝につり、ゴザの上で寝る日もありましたが、南洋特有のスコールも野外での寝所では一回もあわず、きつと英霊が守つて下さつたのでしよう。

マーシャルの住居はスコールをよけるだけと云う丁度家のようでした。食事も屋根のない戸外です。暑い日中でも椰子の木蔭はとて涼しく浸し易い場所です。空気が乾燥してきますので、東京のような蒸し暑さはないが、直射日光はコゲるような暑さでした。日中はよく椰子の木蔭でお昼寝をしている人が多く、夜月あかりの海岸でにぎやかなフラダンスやなごやかな話し声が聞こえ、又、椰子の葉の積み出しも行なわれていました。

現地忠魂慰靈碑の

副碑を靖国神社へ

クエゼリンが外国人出入禁止の
実験地区であるから、参拝にゆけ
ないこと、また昭和42年3月米本
国から受けた建碑許可の電報(環
礁6号6頁)にも近い将来参拝の
ため日本人を含めあらゆる外国人
がクエゼリンに行くことはできな
いと指令されたこと、これとは反
対にマジロ島なら建立してもよ
い、むしろ歓迎する(環礁5号6
頁第一欄)ということとは総て承知
であった。しかし、慰靈碑は戦死
者の多かつたクエゼリンがよいと
いう多数意見によって決ったこと
である。

完成してみると、他に例を見な
い誠に立派なものであり、百名内
外の遺族しか見たものがないとあ
っては物足りない。そこでやや小
型の副碑を作ってこれを靖国神社
に供えることを多くの遺族が望ん
でいる。林前会長も生前副碑のこ
とは屢々口にされたところであ
り、マジロ島地区は派遣員の経
験どおり容易に参拝に行けると
ころでもない。中には自分は年をと
って、足も頼りなく、現地語りの
望もないのでせめて靖国神社に副
碑でも奉納して展示されたらそれ
を拝みに行きたいという声をしき
りに聞く。そこで来る2月6日の
総会に提案し、副碑製作について
の御意見を伺いたが、御欠席の
方は、同封はがきの所要欄に本件
御記入の上お送り願います。

ミラー司令官夫妻来訪のこと

このことについて環礁11号10頁
で予報しました。日本に来られた
ら一度食事を共にして、話でも伺
いたいが、そんなとき参加したい
方は予めお知らせ下さいとお尋ね
しました。三十余名の御希望があ
りました。8月25日徳原さんが来
日。早速ホテルでお目にかかっ
た。早速ホテルから来て。山王ホ
テルに部屋予約もしてあるとの
ことでした。早速橋本厚生政務次
官や武藤援護局長にもお願いしV
IP(万博特別扱の扱い)や、京
都の高津三代治様にお願ひし桂離
宮の藤田様のお取計いで特別拝観
をその他ホテル、カイド万般の準
備を終りました。ところが7日に
至って中止の電報があり一同力を
落しました。

ミラー司令官からの便り

45・9・16受

私共夫婦は計画した旅行ができ
なくなりましたことを、とて
も残念に思っています。私はあな
たからいただいたお便りを、私が
ホノルルから九月七日クエゼリン
に帰るまで入手できませんでし
た。私がホノルル滞在中九月一日
に、七日から十四日までの一週間
クエゼリンで行う会議に私が出席
するよう上級司令部からの命令を
受けました。現在としては、いつ
日本への旅が出来るか見当がつか
しません。今年一はいは到底できな
いと思います。

私は心から、あなたの準備して
下さった総てに心からのお礼を申
し上げます。そして私がこの度の

旅行ができなくなったことを心か
らお詫び申します。この旅行を計
画したのは実はこれで四度目だっ
たのです。そして毎回何か取消さ
なければならぬ理由が起りました
から。第五回目は私等に幸福が
さづかると思います。それを願っ
ております。

重ねて私達は皆さんお心にか
けて下さいましたことに対し御礼を
申し上げ、あわせて日本において
あなた方におめにかされるよう折
っております。私達が参りますと
きは必ずおしらせいたします。

ドナルド・ビー・ミラー
陸軍大佐、司令官

ミサイル迎撃に成功

米ABMを打上げ実験

ミラー司令官の来日を一週間に
控えた9月1日朝、朝日新聞の第
一面に前記のみだしてミサイル発
射の写真入で七段ぬきの記事がの
った。毎日新聞もやはり同日朝刊
第一頁にABMの技術完成示すと
し、サブタイトルに米の迎撃実験
成功として写真入の大きな記事が
出た。クエゼリンから六千七百キ
ロ離れた米本土バンデンパークの
空軍基地から打上げた大陸間弾道
弾を、リーダーで追跡し、これ
に向ってクエゼリンから迎撃ロケ
ット、スパルタンを発射し、この
実験が成功したという内容であ
った。発射は8月28日に行われたと
記されてあった。

これほどの記事が朝日、毎日の
一面に出たのだからよほど重大な
意義があったのであらう。

9月13日の閉会式前何とかして
万博が見物したくて、28日の実験
でホツとして、とりあえずハワイ
まで出て、7日に米日の予定であ
ったが、本国からの指令で帰島の
ため、中止の経緯が察せられた。
○徳原徳子様からの便り10・13受
10月2日ミラー司令官の官邸に
うかがいました。石橋様及び水野
はな様からの贈り物を御夫妻に直
接お渡ししました。お二人共、大

靈 壘 簿 の 製 本

用紙、墨汁については、靖国神社
の弥宜として書道の大家として、
私の尊敬している鈴木忠正様のお
話を承って選んだものであり、浄
書は千二百枚に及んだ。

次は製本である。製本には布地
も使うのであらうし、糊も使う。常
夏のマッシュル諸島で変質するよ
うなことがあってはならない。

この相談は剣持五十七氏にもち
かけた。彼は威勢のいい江戸っ子
であるが、当時八十才。足が頼り
ないので、減多に外出せず、家に
在って、すぎな酒を毎晩一本はし
て、悔なき余生を送っている。若
い頃から海軍省で製本の仕事に従
事し戦後は防衛庁でコッコツと昔
の軍関係の書類を整理していた
が、先年停年で退職した製本一途
に生きた人である。

そうなお喜びでした。日本訪問計
画の中止のことは返すがえすも残
念なことだと言われました。しか
し軍の命令である以上、自分は腹
を立てるわけには行かないが、夫
人の口惜しがりが様は大変なもので
したと司令官は苦笑して居られま
した。来年一月にはまだ確約は出
来ないが訪日を実現出来るよう努
力してみるとおっしゃいました。

聞いた。そんなわけで、今回の製
本は彼に頼んだ。

「兵学校の名簿をつくる」とき、表
紙の布地の選択には随分苦労しま
した。普通の製本なら材料店はい
くともありますが、このように尊
しいものは戦後あまり扱いません
でした。神田に行けば解決すると思
って参りましたが、戦前と違って
わかりません。そこで交番に入っ
て事情を話しましたところ大変感
激し心あたりを探した結果、現在
そのような店は浅草と京橋、二軒
あるだけだとのことでした。その
巡查さんは御親切に浅草の合羽橋
のその店まで御一緒して下さいま
した。その店は全主部京都の織物で、
主として有名な俳優の衣裳の布地
を扱っていました。その中から英
霊の名簿に一番ふさわしいものを
選びましたが、そのときの残りが
ありますからそれを使います。兵
学校の名簿といい、今回の名簿と
いい誠に光栄に思いますので念を
入れてつくる。三冊の製本につ
ききりで一ヶ月かかった。(浮田)

事務局だより

○新篤志会員紹介

本会創立当初から、篤志会員として大変御指導、御協力下さった大野克一様及び村岡達志様何れも後進に道をゆづられ、厚生省から御退職になりましたが今後も今まで同様篤志会員として御指導をお願いいたしましたところ御快諾を得ましたので御礼を申し上げると同時に御紹介申し上げます。大野様のおとは横溝幸四郎様が後任として課長に御就任になりました。大野様村岡様と同様篤志会員として、御指導いただきたくお願い申し上げます。ご紹介いたします。

○ミラー司令官のその後

前号の本欄で、ミラー司令官の異動の噂を記載しましたが、去る7月6日の現地新聞アワングラス紙で、米陸軍省はミラー司令官の任期を一年延長する旨公表があったと記載されておりました。

○遺族会名簿の作製に配布について

かねてから、多くの方のご要望のありました本会の名簿の原稿ができております。

内容は現在本部とご連絡のある会員の方だけのものになりました。戦没者はその氏名と本籍の都道府県名、所属部隊名、戦没年月日、戦没地名、その戦没者の遺族の氏名、続柄、現住所を記載しました。これを遺族現住所の都道府県別に

分類し、都道府県内は五十音順にならべました。

価格(一冊の値段)は印刷部数によって、随分違ってきます。

(例えは(送料共))

- 印刷部数 一冊の値段
- 一〇〇〇冊の時 五〇〇円
- 二〇〇〇冊の時 三五〇円
- 三〇〇〇冊の時 二八〇円

基金で印刷しておわけする余裕はありませんのと、印刷部数が少ないと単価が割高になること、そして今後このような名簿を作ることはまずないであろうと思っております。希望部数同封ははがきでおしらせ下さい。

○マーシャル諸島への旅

昭和42年派遣員渡航当時はサイパン・マジュロ間が週一回、横浜から船だと早くて三十日かかった。その後週二回になった。クエゼリン環礁プラウン環礁には相変わらず外国人の接近は許されていないが、マジュロ島は勿論その他の島には行ける。42年にはマジュロ島に一軒だったホテルが今は二軒、エビゼにもホテルができたという。

ヤルト島やウォッゼ島には42年にはなかった病院もそろそろできたのではないかと思う。42年にはマジュロ島から他の島に行くためにはコブラ集荷船が出るまで船待を必要としたが、今年(45年)の夏からは水上機による航空タクシーができたので、望みの島にはいつでも行けるとい

う。この話は8月徳原さんの来日の時耳にしたことであり徳原さんが日本滞在中開通になる筈ということであった。

環礁が年二回発行だから耳よりなニュースも速報できないやみがある。

マーシャルに行きたいとか、マールンツェルに見たいとかいうお望みの方があつたらすみ御申出いただきたい。

○環礁第一集について

環礁第一号から第十号までをまとめ合併本とし、表紙、本会の沿革や島毎に記事の所在がわかる目次をつけた。相当多数作つたためまだ残部があります。代御希望の方は御申越下さい。代価は送料を含め一冊五〇〇円

○クエゼリン陣中日誌中訂正

環礁十二号の2頁中誤記がありましたので訂正します。下段十二行目「一筋に仕え……」は「一筋に仕え……」の、二十四行の「見そなはし……」は「見そなはし……」の誤。

○写真の焼増について

本号は慰霊碑の縁起特集号という性格をもつたものになりました。そしてこれ一冊あれば、慰霊碑のすべてがわかるものとするつもりでした。しかしそのためには二十頁でも三十頁でも充分であります。せんため所期の内容のものとはなりません。写真もあまり沢山のせいで細かくてはつきりしないものもあります。

新春を寿ぎ

謹んで新年のお慶び申し上げます

昭和四十六年元旦

◎ 本会役員及び篤志会員

名誉会長	朝香 鳩彦	篤志会員	大野 克一
顧問	石橋 湛山	篤志会員	嘉村 栄
相談役	朝香 季彦	篤志会員	ケイス・エス・
会長	村上 義一	篤志会員	瀬沼 光久
副会長	浮田 信家	篤志会員	土屋 太郎
常任幹事	佐藤 宗丞	篤志会員	徳原 勇
幹事	橋口 昭利	篤志会員	中島 昌彦
幹事	秋山 正清	篤志会員	中田 虎一
幹事	井上 賀雄	篤志会員	成田 喜代治
幹事	宇田川 ヒサ	篤志会員	長谷川 栄次
幹事	木村 久子	篤志会員	長谷川 敏
幹事	国松 ふみ江	篤志会員	林 幸市
幹事	小泉 文江	篤志会員	松平 永芳
幹事	佐竹 エス	篤志会員	村岡 達志
幹事	萩原 金次郎	篤志会員	横溝 幸四郎
幹事	山浦 信子	篤志会員	安藤 サヨ
幹事	岡野 正文	篤志会員	白鳥 梯子
監事	末広 正男	篤志会員	本木 光江
監事	昼間 栄平		
監事	有馬 成甫		
篤志会員	板垣 徹		

本部

郵便番号一五四
東京都世田谷区野沢
三丁目十一番三号
マーシャル方面遺族会
電話(東京)三三三六四番

- カラー 300円
- 白黒 50円
- キヤ I サイ サイビス
- ビネ ズ手札 サイビス